

杏林大学大学院国際協力研究科
博士前期課程 入学試験問題

専門科目試験
＜60分＞

専攻	選抜	ページ	選択科目
国際開発	・一般 ・留学生特別	1 ページ	A国際政治・経済分野、B経営分野、C法律分野のうちから1科目を選択し、日本語で論述しなさい。
国際医療協力	・一般 ・留学生特別	2 ページ	D国際保健分野、E社会福祉分野のうちから1科目を選択し、日本語で論述しなさい。
グローバル・コミュニケーション	・一般 ・留学生特別	3～5 ページ	Fグローバル・コミュニケーション論（英語分野）、Gグローバル・コミュニケーション論（中国語分野）、Hグローバル・コミュニケーション論（日本語分野）のうちから、指定されている1科目を解答しなさい。

国際開発専攻・専門科目

以下の A～C の科目から 1 科目選び、解答しなさい。

A 国際政治・経済分野

- 1 覇権安定論における覇権交代の観点から、米中対立を説明せよ。
- 2 次の用語を簡潔に説明しなさい。
 - (1) 人間の安全保障
 - (2) スウェットショップ
 - (3) 相互確証破壊

B 経営分野

- 1 サービス産業におけるイノベーション（例えば、デジタル技術や顧客体験設計など）は、国際競争力にどのような影響を与えるか、具体例を挙げて論じなさい。
- 2 次の用語を簡潔に説明しなさい。
 - (1) 情報の非対称性
 - (2) 価値共創
 - (3) プラットフォーム戦略

C 法律分野

- 1 一般法と特別法に関して、具体例を示しながら、論じなさい。
- 2 以下の用語について説明しなさい。
 - (1) 社会権
 - (2) 表見代理
 - (3) 正当防衛と緊急避難

国際医療協力専攻・専門科目

以下の D～E の科目から 1 科目選び、解答しなさい。

D 国際保健分野

- 1 第 2 次トランプ政権誕生後に導入された政策による国際保健分野への影響とその対応のあり方について述べなさい。
- 2 以下の用語について簡潔に解説しなさい。
 - (1) 健康寿命
 - (2) 三大感染症
 - (3) SDGs のゴール 3

E 社会福祉分野

- 1 社会福祉政策における「エイジズム問題」への対処のあり方について述べよ。
- 2 以下の用語について簡潔に解説しなさい。
 - (1) ADL
 - (2) ウェルビーイング
 - (3) スティグマ

グローバル・コミュニケーション専攻・専門科目

以下の F～H の科目から、指定されている 1 科目を解答しなさい。

F グローバル・コミュニケーション論（英語分野）

Please read the following passage:

著作権の関係により公表いたしません。

(Cited from Geoff Colvin, Talent is Overrated, Portfolio, 2008)

Please answer the following question in English.

- (1) Based on the above, what conclusions can be drawn as to the author's opinion on innovation?

In your own words, give a brief explanation of why creative achievement requires substantial preparation. Give any specific examples from your own experience that add to the argument.

G グローバル・コミュニケーション論（中国語分野）

以下に示した中国語と日本語訳の下線部に注目して、翻訳方略の「受容化（Domestication、帰化）」と「異質化（Foreignization、異化）」について説明しなさい。そして次に、その要点を中国語でまとめなさい。

[中国語 1] 我便说：“今天你在哪个方向放羊？我领个暖瓶，走路去给你送茶！”他说：“豁切！”

[日本語訳 1] 私は「今日はどのあたりに放牧に行くの？魔法瓶でお茶を持って行ってあげる」といった。ジーマは「フォッチェ [カザフ語で、いいよ、そんなことの意]」と言った。

[中国語 2] 居麻给梅花猫吃肉时，嫂子反对：“豁切！”

[日本語訳 2] ジーマが梅猫に肉をやろうとするとおばさんは反対して「フォッチェ^{よしなさい}」と言った。

H グローバル・コミュニケーション論（日本語分野）

問い 1 日本語の最小対の例を 3 つ示し、最小対について説明するとともに、オーディオリンガルメソッドで行われる最小対練習の長所および短所について指摘しなさい。（最小対の例×3、最小対の説明、長所、短所）

問い 2 以下の例について、正用と誤用が生じた理由について説明しなさい。ただし、日本語学習者の母語の影響については考えないものとする。

（例 1 の正用、例 1 の誤用の理由、例 2 の正用、例 2 の誤用の理由）

例 1 *リンさんは元気かったです。

例 2 *図書館へ行いて、本を読みました。

問い 3 第二言語習得研究における「インプット仮説」と「アウトプット仮説」それぞれについて、定義を行い、両者の違いを説明しなさい。その際、「理解可能」「使用」「促進」という用語を使うこと。

(指定の語の適切な使用×3、各仮説の説明×2)